平成27年度文部科学省
「大学教育再生加速プログラム（AP）」採択事業

長期学外学修プログラム
平成28年度報告書

文化学園大学



長期学外学修プログラム
平成28年度報告書

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）
テーマⅣ　長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）報告書発刊にあたり

ご挨拶

この度、長期学外学修プログラムの2016年度事業活動の報告書をまとめました。

本学では、建学の精神である「新しい美と文化の創造」のもと、国内のみならずグローバルにファッション分野で活躍できる人材育成を目指しております。本プログラム実施のため2月から3月にかけて梅春学期を新設致しました。学生が長期間にわたり海外での異文化交流、国内での企業研修等の体験を行うことで、主体性や海外・国内の幅広い視野とグローバル創造力を身につけることを目的とします。

本プログラムは服装学部と現代文化学部の2学部で取り組んでおります。2016年度は海外ではグローバルファッションマネジメントコース3年生のオーストラリア、香港、国内での8週間のインターンシップと語学研修とオーストラリア　シドニーのRaffles校で学生同士のワークショップでのモノづくり、国内では長野県飯山市での「和紙と漆のものづくり」体験、岩手県久慈市では「製造の現場で考える日本のものづくり」をテーマに工場体験を行いました。

学生の報告書にありますように、貴重な体験を通じて多くのことを学べたと思います。

最後に、本プログラム実施に当たり、ご協力、ご支援いただいたRaffles College of Design and Commerce, TAFE Queensland Brisbane, South Metropolitan TAFE, Hong Kong Design Institute, 飯山市役所、飯山仏壇事業協同組合、内山紙協同組合、岩手モリヤ株式会社、岩手県県北広域振興局様に心から御礼申し上げます。

2017年3月

文化学園大学
副学長
濱田　勝宏

Message from Vice President

This time we put together annual program activity reports for "the Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP", Gap Year program academic year 2016. Under the school founding motto of "Creating New Beauty and Culture", Bunka Gakuen University aims to develop individuals who can take a vital role in the global fashion industry.

To implement the program, we introduced a new term called "Umeharu" between February and March. The purposes of the program is for students to be more self-directed, broaden their views, and acquire a "global creation" by having a cross-cultural experience overseas and job training opportunities at domestic companies for a long period of time.

Our two Faculties - Faculty of Fashion Science and Faculty of Liberal Arts and Sciences - have been working on the AP program. In the academic year 2016, we implemented eight-week internships at Australian, Hong Kong, and domestic companies and a combination of language programs as a part of the Global Fashion Management course for the third-year students and a design manufacturing collaboration workshop with students from Raffles College of Design and Commerce in Sydney, Australia. In addition, we carried out two domestic programs, which are a "Japanese washi paper and lacquer making" experience program in Iiyama City, Nagano, and a factory experience program in Kuji City, Iwate under the theme of "View Japanese production at the manufacturing site". As reported in the following students' reports, I'm certain that they were able to learn a lot through those valuable experiences.

To conclude this message, I would like to express my deepest gratitude to those who supported and made this program possible, especially to Raffles College of Design and Commerce, TAFE Queensland Brisbane, South Metropolitan TAFE, Hong Kong Design Institute, Iiyama City office, Iiyama Buddhist altar Business Cooperative Association, Uchiyama paper Cooperative Association, IwateMoriya Inc., and Iwate Prefecture Kenhoku wide-area Promotion Bureau.

March, 2017
Katsuhiro Hamada
Vice-President
Bunka Gakuen University

取組概要

《本事業のテーマ》

“梅春学期の新設とその展開”

—ファッション分野における「グローバル創造力」を持った人材育成のためのプログラム—

《取組内容》

クリエイティブ・ファッション分野はグローバル化が急がれる領域である。本学は、「新しい美と文化の創造」を建学の精神とし、日本国内にとどまらずグローバルに活躍できる人材の育成を目指している。このためには、グローバル意識を持たせるような教育が不可欠であり、大学入学後早期（1・2年次）に中長期にわたる異文化を知る海外学外学修や我が国の伝統や文化を理解する国内学外修が有効である。しかし、中長期の学外研修をとりカリキュラム化することは現在の学事暦では困難である。

本事業においては、学事歴を考慮した上で後期試験終了後（2月中旬）から春期休暇（3月中旬）までの期間の約1カ月を「梅春学期」として新設する。本事業は、1年次及び2年次を中心に集中的な学外体験プログラムを提供し、3年次におけるより専門的な学外学修プログラムに役立て、ファッション分野における「グローバル創造力」を養成できるようにするものである。

梅春学期

	2月 ～February～				3月 ～March～			
Before	1st week	2nd week	3rd week	4th week	1st week	2nd week	3rd week	4th week
	定期試験終了 2/9						3/13 → 春季休講 →	
After	1st week	2nd week	3rd week	4th week	1st week	2nd week	3rd week	4th week
	定期試験終了 2/9	2/10 “梅春学期”新設！ →				3/12	3/13 → 春季休講 →	

長期学外学修プログラム概要

《目的》**グローバル創造力の育成** ⇒ コミュニケーション力と文化・伝統理解力が大事

コミュニケーション力			文化・伝統理解力		
言葉で伝える	そのために	言葉を学ぶ	日本の文化・伝統を理解する	そのために	日本の文化・伝統の中で学ぶ
デザインで伝える	そのために	デザインを学ぶ	異文化を理解する	そのために	異文化の中で学ぶ

プログラム

1・2年次（4週間）

実施期間：1・2年次梅春学期（2~3月）
実施場所：日本の伝統文化に関わる企業、海外提携校
内容：インターンシップ（日本）、講義受講やワークショップ（海外）
目標：グローバル化への「気づき」を得る

3年次後期（8～12週間）

実施期間：3年次後期
実施場所：海外や日本のファッション関連企業、海外提携校
内容：インターンシップ（海外・日本）、ファッションショー企画参加（海外）
目標：「グローバル創造力」を養う

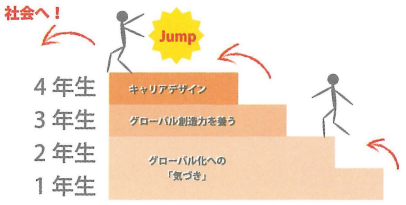


図1. プログラムに関するステップアップ

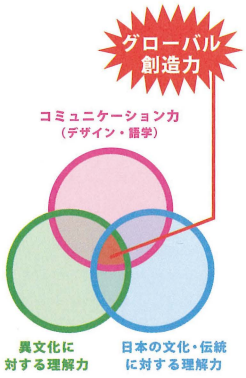


図2. グローバル創像力の育成

目次　インターンシップ研修報告書

[国内梅春科目Ⅰ]
和紙と漆でものづくり　～日本の伝統工芸を見て、知って、体験する～

01 造形学部 デザイン・造形学科 …… 7
02 造形学部 デザイン・造形学科 …… 8
03 造形学部 デザイン・造形学科 …… 9
04 造形学部 デザイン・造形学科 …… 10

[国内梅春科目Ⅱ]
製造の現場で考える日本の服づくり　～服づくりの要である工場の設備・技術を学ぶ～

01 服装学部 服装造形学科 …… 13
02 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 14
03 服装学部 ファッションクリエイション学科 …… 15

[海外梅春科目]
オーストラリア・シドニー研修　～現地学生と共同作業で作品制作に挑戦～

01 服装学部 服装造形学科 …… 17
02 服装学部 服装社会学科 …… 18
03 服装学部 服装造形学科 …… 19
04 服装学部 服装造形学科 …… 20
05 服装学部 服装造形学科 …… 21

[海外プログラム]
グローバルファッションマネジメント実習

01 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 24
実習企業名 ELS Universal English College (Sydney)
VanMed (Sydney)
Corporate Apparel Group (Sydney)

02 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 26
実習企業名 ELS Universal English College (Sydney)
VanMed (Sydney)
Corporate Apparel Group (Sydney)

03 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 28
実習企業名 ELICOS (Perth)
TAFE (Perth)
JONTE DESIGN STUDIOS (Perth)

04 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 30
実習企業名 ELICOS (Perth)
TAFE, Fashion class (Perth)
Galleria Couture (Perth)

05 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 32
実習企業名 ELICOS (Perth)
TAFE (Perth)
Morrison (Perth)

06 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 34
実習企業名 ELICOS (Brisbane)
TAFE (Brisbane)
Fashion Weekly (Brisbane, Capalaba)

07 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 36
実習企業名 TAFE Mt.Gravatt (Brisbane)
Fashion Weekly (Brisbane, Capalaba)
Mountain Designs (Brisbane)

08 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 38
実習企業名 KOYO（香港）

09 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 40
実習企業名 KOYO（香港）

10 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 42
実習企業名 ELS Universal English College (Sydney)
PLOTZ（香港）

11 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 44
実習企業名 ブランドニュース株式会社（東京）

12 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 46
実習企業名 ラフォーレ原宿運営室（東京）

13 服装学部 服装社会学科 グローバルファッションマネジメントコース …… 48
実習企業名 オンワード樫山（東京）

国内プログラムⅠ

和紙と漆でものづくり

～日本の伝統工芸を見て、知って、体験する～

担当教員　栗山文弘・田中直人

◇授業概要

長野県飯山市は日本のふるさとの原風景が色濃く残る地域であり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の二つの伝統工芸品がある。この授業では、紙漉きや仏壇づくりに用いられる漆芸、蒔絵、彫金といった伝統工芸の技法を職人に直接指導してもらうとともに、これらの技法を用いた商品等のデザインにチャレンジする。伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れ、グローバル化が進む中で「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できる力を身につけてほしい。

◇到達目標

(1)「内山紙」の紙漉き体験を通して、和紙がどのようにできるのかを理解するとともに、和紙職人のものづくりに対する思いを感じることができる。
(2)「飯山仏壇」の彫金、蒔絵、漆芸、木彫などの体験を通して仏壇がどのようにできるのかを理解するとともに、和紙職人のものづくりに対する思いを感じることができる。
(3) 伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れた上で、「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できるデザイン企画をすることができる。

◇期　間／スケジュール2017年2月13日（月）～2月25日（土）　13日間

	月	火	水	木	金	土	日
1週目	2月13日 ・移動日	2月14-16日及び18日 ・飯山仏壇に関わる技術を学ぶ ・木彫／箔押し／彫金の工房見学と体験			・休暇	・蒔絵の工房見学と体験	・休暇
2週目	2月20-22日 ・内山紙に関わる技術を学ぶ ・紙漉きの見学と体験			2月23-24日 ・伝統工芸を活用したデザイン提案 ・企画づくりとプレゼンテーション		2月25日 ・移動日／帰着	

◇成果と課題

学生たちは、飯山仏壇、内山紙といった伝統工芸を、職人（工芸士）から直接、指導してもらう体験を通じて、技術の高さを知るだけでなく、人柄の温かさに触れ、対話することで、伝統工芸の置かれている状況や諸問題（ライフスタイルの変化、後継者不足等）についても理解することができた。そこから、自分自身のものづくりに対する考え方や、今後のキャリアについても見つめ直すことができたことは、本研修の成果（＝長期学外学修ならではの教育効果）と言えよう。また、参加学生が一人一人、伝統工芸を活用した企画を作成し、現地でプレゼンテーションしたことは学びを地域に還元する機会となった。

他方、ホテルを宿泊拠点としたが、地方都市における長期滞在は、食事、移動、洗濯といった日常生活面での不便が学生から指摘された。教育内容を充実させることとともに生活環境を改善することも、次年度にむけた課題である。

所属学部学科：造形学部 デザイン・造形学科（1年）

1 履修の目的・目標

入学してから早一年が経とうとしていて、この一年間を振り返り課題やアルバイト、部活に追われる日々であったと思った。まだ学生生活に慣れていないのもあるが、このまま進級することがやるせないと感じた。そこでこれから先の課題やいずれは迎える就職に向かって視野を広げるということでこのプログラムを履修させて頂いた。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修は12日間もあり、全てを終えた今では長いようで短かったと感じてしまう。その中でもたくさんの飯山市の人々と出会い、思い出に残っている。休みの2日間では、戸狩温泉スキー場にスノーボードをしてレジャーに親しんだ。正直、これが最も印象に残ったという1つのエピソードはない。どちらかというと、大まかに飯山市の生活が印象に残っている。

飯山市は何もなかった。そのため食費に多ぐ悩まされた。そこで宿から4km離れた生協に出向き食材を買い、徒歩で帰宅する。宿にも調理器具が何もないので、野菜を洗面台に浸し、手と持ち合わせていたカッターで切った。茹でたい時には、ポットに食材を入れ沸かした。普段実家暮らしの僕にとっては不便に感じることが多かった。しかし、またこういった田舎で一人暮らしのような生活も初めてだったので、大いに楽しめた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

伝統工芸というのは、よくテレビなどのメデイアから耳にする言葉であった。普段から関わりもないので実感もなく、なんとなく硬派なイメージが僕の中ではあった。今回のプログラムの中で、8人もの伝統工芸士と出会い、いろいろと気付いた。工芸士の皆さんは暖かく、優しかった。木彫刻の森徳壽さんは若い僕に伝統工芸の現状を教えてくださり、豚汁をご馳走してくれました。鷲森金具の鷲森敏男さんは気さくな方でよく話しかけて下さり、僕らの冗談にも乗って下さる方でした。藤沢金具の藤沢祐一さんは20代という年が近いせいか話がよく合い、冗談をよく言う楽しい方でした。内山紙の阿部一義さんは硬い人柄ながらも僕らに気を使ってくださり優しいおじいちゃんでした。だが、伝統工芸といえども現代を生き残る術が少なくなっていることに気づいた。そのことを工芸士の皆さんが口を揃えていい、その時の悲しい表情と僕の中に湧き出る熱い感清が忘れがたい。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

この飯山を訪れるまでは、視野を広げるということでしか考えてはいなかったが、ここにきてたくさんの社会勉強をさせて頂いた。飯山の伝統工芸は大きく分けて3つ問題があることに気づいた。1つ目は仏壇の需要がなくなっていることだ。つい1が月前ほどに祖父を亡くしその時、仏壇をできるだけ安くしようと話していたことを思い出した。2つ目は高齢者の増加により後継者不足になっているということだ。実際、僕らの行動範囲が少ないということもあるが、街で同世代の人たちをほとんど見なかった。3つ目は不景気により、仏壇の業者が中国から安い仏壇を仕入れてしまうということだ。また、内山紙でも同じことが言え阿部さん曰く、新しい商品を開発しても売れないというのが現状らしい。デザイナーという職種に興味がある僕にとっては、ものをデザインする中に経済的な視野も入れなければいけないのだと気付き、今後の課題に生かして行きたいと思った。

所属学部学科：造形学部　デザイン・造形学科(3年)

1 履修の目的・目標

私がこの授業を履修しようと思った訳は、11月にジュエリーメタルワークの研修で金沢で漆塗りについて学んだので、更に深く伝統工芸について学びたいと思ったからです。約2週間という期間でじっくり職人さんから話を聞いて、実際に自分達でも作ってみて、ものづくりについて理解を深めたいと思い履修を決めました。次は四年生になるので、卒業制作を作る際のヒントにもしたいと思っています。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残ったのは、やはり飯山の皆さんのあたたかさです。皆さん驚くほど親切で優しいのです。研修に行くたびに皆さんお茶やお菓子を出してくれて、寒いからこたつでお昼を食べなと声をかけてくれました。豚汁をわざわざ作って出して下さった研修先もありました。皆さんの素晴らしい伝統工芸の技術はもちろん、こんなにもあたたかい土地はなかなか無いだろうなと思いました。また、泊まっている旅館の女将さんも傘を貸してくれたり、カラオケに遊びに行けば店員さんが林檎をくれたりと様々な場面であたたかさに触れることが出来ました。私は、生まれも育ちも埼玉県なので、なかなかそんな優しさに触れることがないのでとても新鮮でした。伝統工芸だけで無く、このあたたかさも沢山の人に知ってもらいたいと感じました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して、仏壇を作っているなんて堅苦しそうだなと思ったけれど、作ってみたら難しいけど素敵な物ができて、やりがいを感じました。皆さん今の需要と供給に伴って段々売れなくなっている仏壇の技術を活かしながら、違った商品づくりに幅を広げていてすごいなと思いました。蒔絵を仏壇にだけ生かすのでは無く、万華鏡や時計やペンダント、手鏡やお皿に生かしていました。他にも、観光客向けに彫金体験を手ごろな費用で実施していたり、内山紙でハガキやうちわを作る体験を実施したりしていました。きっと、仏壇や和紙だけでは需要もなかなか少なくなっていると思うけれど、色んな物で伝統工芸を今の若い人や海外からの観光客向けに伝える活動をしていて、皆さんすごいなと感じました。伝統工芸の難しさと柔軟に時代に乗っていく大切さを感じました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の2週間という長いようで短い期間で職人さん達から生の声をじっくり聞くことが出来ました。後継者問題や少子化など問題点は沢山あると思うけれど、私たちも飯山の皆さんの為に何か出来たらいいなと感じました。また、私は来年4月から四年生になります。今回飯山で学んだ木彫、漆塗り、蒔絵、彫金、紙漉きなどの沢山の素晴らしい技術は、卒業制作を作る時に生かして行きたいと思いました。皆さん凄く細やかで繊細な技術を持っていて、私も繊細でなおかつ丈夫な作品を生み出して行きたいと思いました。普段東京にいるだけでは、なかなか体験できない貴重な体験をさせていただきました。デザインを学ぶ者として、これからの学生生活にぜひ生かしていこうと思います。

所属学部学科：造形学部　デザイン・造形学科(3年)

1 履修の目的・目標

デザインを学んでいるとよく感じることは、目で見たり自ら体験したことがいかにその後の振り幅を大きくするかということ。そのためチャンスがあるのであれば様々な知らないことを積極的にチャレンジしていきたいと考えていたので、とても良い機会だと考えた。また、3月から留学をするにあたり日本のことを深く知っておくことは大切だと考えた。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で印象深かったのは、飯山に住む方々の温かさである。体験した先では一から丁寧に教えてくれ、行く先々でたくさんのお土産を頂いた。初対面にもかかわらず家族のように温かく出迎えてくれ、体験の終了予定時刻が過ぎても、作品が出来上がるまでつきっきりで教えてくれた。よくある体験型の授業というのは、自分がやりたいと思う気持ちよりどちらかというと決まったデザインやプランの中でやらされることが多い。しかし、今回飯山で体験したものはどれも個人が一からデザインを考え、その一人一人のデザインに合った表現の仕方や技法を職人さんが教えてくれ、頭の中にある理想のデザインまで近づくように一緒になって考えてくれる、そんな体験だった。言葉ではなかなか表現のしずらいデザインの理想までも汲み取ってくれ、最初で最後になるかもしれない体験を無駄にしないよう、限られた時間の中で職人さんと私たちでコミュニケーションをとりながら完成まで持って行くことができた。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

「昔は1000軒ほどあった和紙作りを行なっていた場所が、今はたった2軒しか残っていない」という話を聞き、こういった伝統的な文化が、廃れてしまっていることにとても悲しい気持ちを感じた。私たちが何不自由なく過ごせるのは、人の能力を超える科学、電気や食料などの豊富な資源などに囲まれているからだが、そういったものが進歩するほど、古いものや手間のかかるものは無くなっていき、伝統的な物を必要とする人が少なくなり、触れる機会が減ってしまう。しかしこういったものが全て無くなってしまったら、日本らしさや各地域の良さも消えてしまうのではないだろうかと感じた。今回たくさんのお話を聞いて、進歩する現在と過去のバランスの取り方は非常に難しいと感じた。伝統的な文化を廃らせないために私達ができることは、その文化を知り、その文化に積極的に触れていくことだと感じた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

都内にいると感じることのできない、良い意味での不自由さを味わうことができた。飯山市に十三日間も居て、普段過ごしている中にあった様々な無駄なものにも気付かされた。留学を控えている私にとって、日本の伝統やあるべき姿を味わうことができた今回の経験は、とても意味のあるものになった。近頃は、デザインの世界も多くの場面でパソコンを使用した現代的なアートや造形物が作り出されているが、人が気持ちや手間暇をかけて一から作り出した物の中にある温かさは、いくら科学が進歩しても表現できない領域だと感じた。飯山以外にも、日本各地にそれぞれ伝統的な文化があり、私がまだ見たこともないものがたくさんあると思うので、これから経験をしていきたいと感じた。

所属学部学科：造形学部　デザイン・造形学科(3年)

1 履修の目的・目標

今年の4月から1年留学を予定しているので、その前に日本の伝統工芸に触れておきたかった。現代は日本に住む私のような若い日本人よりも、外国から来た外国人の方が日本の伝統文化に興味や関心が強い傾向にあると思う。自国の伝統や文化の知識が浅く、外国の人に日本の伝統文化を教えてもらうようなことにならないためにも、今回このプログラムに参加することを決めた。また数ある日本の伝統工芸の中でも、私が生まれ育った長野県の伝統工芸を学べることも参加理由の1つである。目標は日本の長野県の伝統工芸品への理解を深めることである。

2 研修で最も印象にのこったことについて

様々な体験を通して1番強く感じたのは、飯山の人たちは親切な方が多いということ。職人さんやその工場で働いている人、宿の人までもがとても面倒見が良く、13日間という長い期間ではあったが、困り果ててしまうようなことは一切なかった。東京と比べると、田舎ならではでの不便さは拭えないものの、比較的l央適に過ごすことができた。また、職人さんはシャイな人が多く、3時のお茶の時間が必ずあるという共通点が面白いと感じた。飲み物はどこの職人の家にもコーヒーがあり、飯山に漆器の技術がないことが残念に感じた。職人愛用、漆のマグカップみたいなものがあっても面白いのかな、と思う。体験を通して、そこから何か新しいものを企画することが今回の目標でもあったため、物をデザインする際に、なるべくモチーフを現代風な物を選ぶようにしたが、伝統工芸品を現代風のデザインは合わせにくいということがわかった。伝統工芸を今の人たちに受け入れてもらい残していくためには、無理にデザインをいじるというやり方はだめだと感じた。様々なオリジナルアイテムを見せていただいたが、こういう使用方法もあるよ、と言った感じで、元々の仏壇がやはり一番しつくりきた。新しい物を生み出すことの難しさを学んだ。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

伝統工芸は伝統工芸品を買ったり本で勉強するよりも、実際に自分でやってみることで価値を感じられるということが、今回のプログラムを通してわかったことである。紙漉きを体験するまでは、和紙に興味を示したこともなかった。和紙どころか、紙がどのようにして作られているか考えたことすらなかった。木彫を体験して初めて、木のお盆に絵を彫ることの難しさを知った。つまらない絵だと思って何の価値も感じなかったお盆が、体験後にはこんな細かい木彫を施してあるなんてすごい物だと感じるようになった。職人さんが何食わない顔でしていることを、実際に行ってみても全くスムーズにできないことが分かり、余計に伝統工芸品の価値というものが肌で感じることができた。これらの経験を通して、飯山の伝統工芸を長く価値あるものとして残していくためには、新しい物を作ることよりも、多くの人にこの伝統技術を体験してもらうことがいいのではないかと思った。職人さんの手のしわや、仕事場、そういういったものが何よりかっこいいと思うし、体験することで伝統工芸品の価値がわかるのではないかと思う。昔のものは今の人にとって、新しい物であると感じる。無理にハイカラな物を作るのではなく、別の切り口で変わらないことを大切に、飯山の伝統工芸品が残ればいいなと感じた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回、海外に行くにあたって、自国の文化や伝統を全く知らないのは恥ずかしいと思い、このプログラムに参加しました。伝統工芸の体験はきっと退屈なことだろうと思っていたので、実際に体験したときに、時間の流れが早く感じる程楽しくできたので驚きました。やってみたら案外面白かったということはよくあることなので、変な先入観は捨てて、様々なことに挑戦してみることが大事だと改めて感じることができました。13日間を終えて、友達といえど他人と長期間過ごすということはすごいことだと思いました。生活リズムの違い、物の価値の感じ方の違い、普通という物が全く異なるということを学びました。人と過ごすことで相手のことを知っていくような感覚がしましたが、この13日間で他人の存在を通して自分を知った気がします。これからまた色々な出会いがあります。特に留学し語学学校に通うため、いろんな国籍の人と関わる機会が多くなると思います。そこに色んな正義、色んな普通があるのだと思います。私はそれを受け入れられる人になりたいです。自分の普通が必ず普通というわけではないということ、人に私を押し付けないこと。相手を理解するということ。否定も肯定もせずただ受け入れること。今回13日間過ごし、自分の直さなければいけない点がなん点か見つけることができたので、それを心に留め、多くを学んでいきたいと思います。田中先生や栗山先生には大変よくしていただけて、わがままもたくさん聞いていただけました。コラボに参加して先生方と知り合うことができて、とても良かったです。お世話になりました。

国内プログラムⅡ

製造の現場で考える日本の服づくり

～服づくりの要である工場の設備・技術を学ぶ～

担当教員　河本和郎・亀谷英杏・鎌倉明香

◇授業概要

世界で流通している衣料のほとんどが発展途上国で製造されている。しかし、先進国のなかで日本とイタリアは、アパレルの製造業が高級品を中心に独自の進化を遂げている。本講座では、日本を代表する重衣料（ジャケット、コート、スーツなど）の縫製工場である岩手モリヤ株式会社の製造現場に入り、縫製のプロセスやCAD、CAMをはじめ各種縫製関連機器など実際の服づくりの現場を体験する。デザインするということは、現実の縫製プロセスや縫製機器を理解し、いかに活用するかということでもある。将来、クリエーターやデザイナーを志望する学生は、空想の世界に遊ぶだけではなく、しっかり現実の服づくりを経験してほしい。

◇到達目標

(1) 工場での製造プロセス（資材の投入から裁断・縫製・プレス・まとめ・出荷まで）を理解する。
(2) 世界に誇れる日本の品質を担保する縫製技術を理解する。
(3) 工場に配置されている機器（CAD、CAM、スポンジング、縫製機器、プレス等）を理解する。
(4) 生地の入荷、資材の発注、製造枚数、製品の出荷等、現場の生産管理を理解する。
(5) 製造するアイテムにより日本らしい細やかな工夫がある製造ラインを理解する。

◇期　間／スケジュール2017年2月14日（火）～2月28日（火）　10日間

火	日	月	火	水	木	金	土	日	火
2月14日	2月19日	2月20-23日				2月24日	2月25日	2月26日	2月28日
事前教育	移動日	・工場での製造プロセス（資材の投入から裁断・縫製・プレス・まとめ・出荷まで）の見学・体験 ・工場に配置されている機器を使った縫製技術を実際にジャケット１着を縫製しながら学ぶ。				久慈地域縫製工場見学・体験	久慈市内観光	第4回北いわて学生ファッションショー in二戸を見学	事後教育

◇成果と課題

・1人1着オールマシンメイドのジャケットを縫製したことで工場での製造プロセスを体験しながら学ぶことが出来た。
・久慈地域縫製工場を見学したことで、それぞれの工場が持つ縫製技術や生産管理の特色を理解することが出来た。
・今後の取り組みとして工場側とのより細かな連携強化を進めるとともに、教育内容の充実を図っていきたい。

所属学部学科：服装学部 服装造形学科

1 履修の目的・目標

今までは、ずっと物を手作りしていますが、本格的なアパレル工場を見たことがないです。日本のアパレル工場の様子はどんな感じか、服のデザインから製品までどういう流れか、工場機械の縫製技術でどうしたらデザインが実現できるか、また工場量産のため色んな先進設備の操作方法とアパレル工場の管理方法を今回コラボの目的として分かるように達成したいです。

2 研修で最も印象にのこったことについて

森奥社長は高い品質を一生懸命に追求している態度が研修で最も印象に残ったことです。岩手モリヤの事業内容は高級婦人既製服の縫製ですから。メードインジャパンにこだわって、最初の生地試験で素材の風合いを把握してから、生地の縮率を考えてパターンを作製するとか、入荷した原反をスポンジングでリラックスするとか、全自動無人連続裁断機で裁断してから縫製するとか完全内製化の一貫生産です。シワを防止するため組み立て工程はハンガーシステム（イートン社製）を使用しています。プレスも品質重視のため縫製最終工程にします。一言で言えば、付加価値高い物を作っています。“日本ならでは”の縫製工場です。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通してアパレル工場量産の流れを学びました。具体的に言うと最初はアパレルメーカー（企画、デザイン）の手配で生地を入荷します。そしてスポンジングで生地をリラックスする～生地試験で生地の性質を測る～CAD室でパターンを制作する（グレーディング・裏・芯）～全自動無人連続裁断機で裁断する（一枚裁断）～芯貼り機で接着芯を貼る～縫製便利のため仕分け作業をする～縫製部門で縫製する（パーツ工程･組み立て工程）～プレスする（検針･アイロン工程）、最後は出荷です（ハンガーをかけた状態で）。

また研修のうちに三日間で一着のテーラードジャケットを作りました。手縫いが無しで全てミシンで完成しました。ジャケットを作るため、色んな専用ミシンを体験しました（フラップ作りミシン、ポケット作りミシン、袖いせ用ミシン、袖付けミシン、ボタンホールミシン、かんぬきミシン、ボタン付けミシン、特別なロックミシンなど）。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

卒業したら自分のブランドを立ち上げたいですから。研修を通しどういう流れで自分がデザインしたアイテムを工場に頼むことをわかりました。アパレル工場生産の流れも理解しました。

また工場生産は一つ一つの工程が繋がっていますから。仕様書の指示や仕事のコミュニケーションをよく理解しないとどんどん間違ってしまって、大きな損になってしまうので、クリアな目標が大切だと思います。そして工場生産は品質だけではなく、効率も非常に求めていますから。今後の学生生活に普段から計画性を持たせておくと重要だと思います。

所属学部学科：服装学部 ファッションクリエッション学科

1 履修の目的・目標

今回は「岩手モリヤの企業研修」を申し込みました。。セっかく日本に留学くるのに、日本の有名工場を見に行きたいです。そのシステムを知りたいです。私は物作りの方か好きです。ですから工場と学校に勉強したの作り方は違いところを知りたいです。先生な言うとり、外国に行かなれば、自分の国をもっと客観的に見ることはできないです。

2 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修は楽しいと疲れる一緒にあるの体験です。私は初めて工場に来ました。来る前に少し緊張しました。想像の中の工場と同じがどうか分かりませ。皆んなに仲直りできますが？でも先生や社長さんやスタッフたちは少し優しいです。楽しいの一周間過ぎました。一周間で岩手モリ株式会社で研修し、ほうかの服装工場で参観しました。具体の生産過程も参加しました。ジャケット作りとパターン作りを体験しました。ジャケット作りの時はすこく疲れました。ジャケットは初めて作りので、分からないのどころいっぱいあります。でも課長さんの助けでたんたん終わりました。普通は半年の仕事は4日間終わりました。でも自分の作品を完成の時、すこく楽しいです。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

この一周間ですごく勉強しました。前四日間、私たちは岩手モリヤ株式会社に研修します。モリヤさんの生産システムを分かりました。それにジャケットいっシャツ作りました。第五日間は久慈市内のほうかの5つの工場に参観します。工場間の違いところか分かりました。モリヤさんはすこい工場です。服装作りだけではない、生地実験室もあります。生地の収縮率と風合いも真面目に考えしました。その中で最も印象なことはやっぱりジャケット作りです。工場内の作り方は学校に勉強したのはだいだい似てるけれども、学校より簡単と思います。工場で全然手縫いをしでないし、ビンも全然使わないです。新しいの作り方が勉強しました。アイロン工程はすこく重要なことです。きれいなジャケットを作りたいならアイロン工程は足りたくないの物です。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修を経ては二年生の授業に予習をしました。普通勉強したくないの物勉強しました。キャリアデザインの時、私はもっと多くの製作テクニックを勉強するために文化に入学したって言いました。今はちゃんと変わりました。作りたい物と作るできる物は違います。今の技術できないの服はいくらかわいいでも作りられない。だから今から製作テクニックだけでわない、デザインのほうかも注意しなければならない。テクニックより重要のは熟練度です。熟練度が高くなりましたら、難しいな服がだんだんできます。ジャケットの制作過程において確定しない事がたくさんあります。正しいもののに、自分を信じないです。だから今後の学生生活に、もっと自信を持ってほうかいいです。自信あれば、作った物もたんたん良くなって行きます。

所属学部学科：服装学部 ファッションクリエイション学科

1 履修の目的・目標

履修の目的は、店頭に並ぶ服は、どのような所で、どのような雰囲気で作られているのか感じてくることです。目標は、生地の入荷から製品の出荷まで理解し、服作りに求められていることを知ることです。また、プロに教わる縫製技術を習得し、今後よりきれいな作品を作れるようになることです。さらに、現場で実際に使われている機械に慣れることです。

2 研修で最も印象にのこったことについて

岩手モリヤさんでは、丁寧な物作りをしていて、とても刺激的を受けました。生地は、スポンジングされた後に、折り目がつかないよう延反機で再度巻き取られていたり、生地試験も行われていました。また、アイロン工程が細やかで、体のラインがしっかり出るジャケット作りをされていました。現場と学校では、服を作るという根本は同じでも雰囲気が全く違い、緊張感がありました。そのため、積極的に質問する事が自然にできました。また、フラップポケットをつけるミシンやいせ込みミシン、ボタンつけのミシンなど初めて見る沢山の機械も印象的でした。学校で手作業で行っていることが、実際では、機械で一瞬のうちにできてしまったのでとても感動しました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修では時間制限付きで直線縫いの練習をしました。しかし、そのスピードについていくことが出来ませんでした。学校とは違い、現場ではとても速いスピードでかつ正確にミシンが扱われていました。ミシンをうまく使いこなすには、沢山数をこなすことだなと実感しました。また、メーカーが要求するデサインは、工場でパターン修正されたり、素材をどう生かすか苦労して試行錯誤されているから要望された形になることを知りました。これを受けて、現場では縫製やアイロンの技術だけではなく、パターンや素材の知識も必要であることを実感しました。そして、、ファションの世界ではよくデザイナーが大々的に取り上げられますが、その他にも沢山の人の思いが集まって1着の服ができていることを知りました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

この研修で、気がついた課題は、パソコンの操作に弱いことです。はじめてCADを体験しましたが、完成するのにとても時間がかかってしまいました。将来、CADが使えたら活躍の場が増えると思うので、2年次は積極的にパソコンに触れていきたいと思います。また、この研修でテーラードジャケットをつくり、プロの縫製やアイロンの仕方を学べました。来年あるテーラードの授業で、そのやり方を実践していきたいです。とくに、アイロン工程に力を入れて、ボディーにフィットした美しい作品をつくりたいです。服を作る上で縫製、パターン、素材どれも欠かせない要素であることを学びましたが、私はどの分野で活躍したいのか見つかるまで探っていこうと思います。

海外プログラム

シドニー研修

～現地学生と共同作業で作品制作に挑戦～

担当教員　岡島奈音・管野絢子・須山憲之・工藤雅人

◇授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する。後期試験終了後から春季休暇までの間で２週間海外学修を体験する。オーストラリア　シドニー Raffles College of Design and Commerce校で現地の学生と一緒に共同のWorkshopを組み、浴衣の製作やスイムウェアのデザイン、製作を行う。製作した作品はWorkshopグループごとに発表し、オーストラリア著名ブランドAkiraのデザイナー五十川　明氏から講評を受けるプログラムである。

講義は文化学園大学教員による補足説明はあるが、英語で行われる。

◇到達目標

２週間にわたりシドニー Raffles College校の学生と共同で浴衣の製作やスイムウェアのデザインや製作作業を行うWorkshopを通じて、言葉が充分に通じない環境でのコミュニケーションの取り方、人種の違う人たちとのチームワークづくりを学ぶ。また、異文化への理解を深め、ファッション分野でのグローバル創造力を身につけることが目標である。

◇期　間／スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土
1週目	3月12日-13日 ・移動日		3月14日-17日 ・きものの歴史とTPO ・ミニチュア浴衣の製作 ・コーディネイトの提案				3月18日 ・作品発表 ・デザイナー五十川 明氏の講演とQ&A
2週目	3月19日 ・終日自由行動	3月20日-23日 ・スイムウェア製作・デザイン				3月24日 ・終日自由行動	3月25日 ・移動日

◇成果と課題

前半のプログラムでは、日本のきもの文化を学び、ミニチュアサイズの浴衣を製作することで構造の基本を理解した。文化学園大学の学生がデザインしたテキスタイルと、Raffles College校の学生が提案するコーディネイトを融合し、新しいスタイルの浴衣を考案した。さらに、オーストラリアで活躍する日本人デザイナーの五十川 明氏から講評を得ることで、デザインやスタイリングに関するプロの知見に触れることが出来た。

後半のプログラムでは、スイムウェアの歴史を学び、製作を行った。使用するミシンやデザインのプロセスなど製作のすすめ方にかかわる日本とオーストラリアの違いを実感した学生が多く、異文化のなかでの学外学修を通してグローバル創造力への気づきをえるという目的を達成することができた点は、大きな成果と伝える。

今年度はカリキュラム外（放課後や休日）においても大きなトラブルはなかったが、今後参加する学生が増えた場合は、海外における安全な滞在を担保するためにも、現地での学生との連絡の更なる緊密化が必要になるであろうと考える。

所属学部学科：服装学部　服装造形学科（２年）

1 履修の目的・目標

私は将来、海外で働きたいと思っているが、異国の服作りの方法や機械、作業場などは実際に見たことがなく、日本で今学んでいることが海外でも同じように役に立つのか不安に感じていた。そこで、自分の知識や技術を海外で試し、さらに、シドニーの学生との共同制作によって同世代の人々がどのような意気込みで同じファッションを学んでいるのかを知るために今回のプログラムに参加した。

2 研修で最も印象にのこったことについて

シドニーの学生と先生の熱意が最も印象的だった。学生は在学中から将来や就職に向けての準備として作品整理やSNSで作品を発信している。作品整理やSNSの利用は文化の学生もしている人が多いが、そのクオリティーの高さに驚かされた。ポートフォリオはプロのモデルに頼み、またインスタグラムにアップしている写真もPhotoshopを利用したと思われるものが多かった。学生は世界中から集まっているためか、デザインにはそれぞれの国らしい色使いやモチーフが含まれていた。先生は有名ブランドに勤めていた頃の経験を活かして、学生の就職あるいは就職後に本当に必要なことは何かを教えていた。例えば「時に遅巧拙速が必要。確実に、素早く仕事をする自分なりの方法を見つけなさい」と言っていたことも印象に残っている。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

シドニーの学生達は本当にプロのような活動をしていて、同世代とはとても思えなかった。私も将来を見据え、具体的に準備をしていく必要があると感じた。例えば文化ではCADやPhotoshop、Illustratorはあまり使わないが、将来必ず使うと思うので、自分で地道に習得してみようと思う。また、インターンシップにも行き、あと2年で社会人だということを実感する必要があると思う。3年では就職活動が始まるので、2年の終わりの春休みにこのような良い刺激を受けたことに感謝したい。研修前に不安に思っていた服作りの方法や機械、作業場は日本とあまり変わらず、異なる点も今まで習ったことを応用すれば問題なかった。ボディは形が少し違っていたが、ミシンはbrotherやJUKIがほとんどで、普段通りに作業を行うことができた。そのことから、今学んでいることは海外でも役に立つ確かなものなのだと知ることができた。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で、海外で働きたいという気持ちがより強くなった。また、そのことをより現実的に考えられることができるようになった。一人で市内を観光したり、積極的に人に話しかけたり、また、寮生活では自炊、洗濯など、今まで海外で挑戦したことのないことに挑戦し、失敗をしながらも2週間でその生活に慣れることができたのは、私にとって大きな自信につながった。これらの事は、海外だけでなく日本にいても同じだと思う。今後の学生生活ではもっと積極的に様々な場所に赴き、普段も自炊など、自分なりの工夫で生活の質を上げることが大事なのだと思う。忙しい時期でも心のゆとりを持つことで、学校や仕事とプライベートの両方を充実させたい。

所属学部学科：服装学部　服装社会学科（２年）

1 履修の目的・目標

私がこのプログラムを履修した理由は、外国で色々な経験をしたかったからです。ファッションを学ぶことにおいて何より重要なのは、色々な人を合って、多様な文化を感じることです。そのために、外国であるシドニーに行って、その人たちのファッションを直接に見たり、感じたいと思っていました。また、それだけではなく、私たちのファッション文化とその国のファッション文化をお互いに共有し、一緒に制作することから興味を持って、このプログラムを履修しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

今回のシドニーの研修を通じて、直接に絵を描いて自分のデザインを構成することや、ミシンを使って水着を制作することなど色々なことをしましたが、その中にも最も印象に残っているのは、オーストラリアの学生と一緒に浴衣を着たことです。

私は、浴衣を着るのが初めてだったので期待をしていました。子供の頃に伝統着物を着たことはありましたが、その時は若くてよく理解できませんでした。今回、浴衣の着方や順番、種類など、日本の伝統着物について確実に理解しました。

また、その日は現地の学生とあったばかりで、まだ親しくなっておりませんでしたが、浴衣の着方を教えながら親しくなることもできました。写真を多く撮って、それをきっかけに連絡先もお互いに交わしました。私は浴衣を通じて様々な経験ができたため、浴衣について学んだことが最も印象に残っています。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

私は今回の研修を通じて、様々なことを学びました。まずこのプログラムで目指したのは、お互いのファッション文化を共有して、直接に制作することでしたが、私には新しい経験でした。自分のデザインを考えて絵を描いたことも、多様なミシンを使ったことも初めてでした。趣味として絵を描いたり、布地を縫ったりしたことはありましたが、自分の作品を直接に作って、誰かに発表したことは初めての経験でした。完成度が高くはなく不慣れな作品ではありましたが、絵を描き、ミシンを使って説明するなど、自分のファッションを表現する方法が増やせたことは、必ず役に立つ経験だったと思っています。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

このプログラムで私は新しく多様な経験が出来ました。自分が目指すデザインを構成して絵を描きましたが、単純に絵を描くのではなく、自分のデザインが他の人に感じられるようにすることが大事です。また、多くのミシンを使いました。大学生1年生の時、被服造形学演習の授業を通じてミシンを使ったことはありますが、ライニングミシンとエラスティックミシン、ツィンニードルミシンなど、ミシンの種類がこれほど多いとは知りませんでした。

今回の研修を通じて、自分の考え方を伝達する表現力や多様なミシンの使い方など、様々な経験をしました。そしてこの経験は、これからの私の未来に必要な経験であると思っています。自分のファッションを広報し、流通させるマーケティング戦略で最も重要なのは、自分のデザインをよく把握して人に合う情報を伝達することです。私がこのプログラムで得た多様な表現力と正確な伝達力を、これからの私の学生生活に生かしていきたいと思っています。

所属学部学科：服装学部　服装造形学科（２年）

1 履修の目的・目標

私がこのプログラムを履修した理由は自分の視野を広げるためです。もともと、色々な国に行き、色々な人に会い、その人達との会話で得られるものを得て、自分の価値を高めるのと同時に視野を広げようと思っていました。また、このプログラムでは本学以外の、他国の学校の教え方やレベルを見ることもできるので、他の学校は何を勉強しているのか、どう勉強しどうデザインをするのが、何が違うのかを知りたいと思い、参加しました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残っているのは何者かは関係なくとも、学生と先生の関係が親しいことでした。
また、現地学生の考え方やデザインは自由奔放で、個性がありました。自ら柄のデザインまで細かく行い、プロフェッショナルにやり遂げるのがすごいと思いました。皆フォトショップの使い方も上手で、自分もそのように柄のデザインをやりたいと思いました。学校の方針や先生たちの教え方もすごく良かったです。

文化が実用的としたら、RAFFLESは芸術的だと思いました。それ以外にもRAFFLESで使っているミシンの全てが日本会社のものだったことも印象に残っています。改めて日本のミシンはすごいと思いました。また、RIO先生から、ライクラ素材やレース素材は裁断するとき、２枚のハトロン紙の間に布を重ねてから裁断するときれいに裁断できることを教えていただきましたが、これはすごくいい方法だと思います。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して英語の必要性を一番身に染みて感じました。全ての人に英語が絶対必要とは言えないのですが、色々な国に行きたい私は、英語は基本として勉強したいと思いました。また、外国語や母国語に関わらず勇気をもって言葉は出さないと伝わらないことと、話す練習や口に出さないと慣れないという事を改めて気づきました。

他にもKAT先生の授業でSWIMSUITの歴史やどうデザインすればいいのかを学び、デザイナーAKIRAさんからいただいた浴衣やSWIMSUITのデザインに対するアドバイスや、NICK先生やCRYSTAL先生からのアドバイスも聞いてすごく良い経験になりました。

さらに、RAFFLESの学生たちの作品からは感激と同時にやる気をもらいました。今回の研修はすごく良い経験になり、私にとって再びやる気が出る切っ掛けになりました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

KAT先生に紹介してもらったある学生の作品を見て、色々な情報を得ることができました。それは立体的な花の装飾を作る方法で、以前からそのようなものを作りたかった私にはとっておきの情報でした。必要な時が来ればこの方法でやってみようと思っています。

また、これからは英語や中国語の勉強に力を入れるつもりです。英語の必要性は知っていましたが、今回の研修で身に染みて必要性を感じました。以前中国語を学んでいましたが、資格を取ったとしても練習や復習をして口に慣れないと無駄なことに気づきました。

研修中には、一緒に過ごした新しい3人の友達との会話のなかで、就職するための取っておくべき資格や色々な情報を得ることができ、色々な意見を聞くことができてすごく良い経験になりました。

所属学部学科：服装学部　服装造形学科（２年）

1 履修の目的・目標

これまで英語圏の国に行ったことがありませんでしたが、まず自分の英語力を高めたいと思い、シドニー研修に参加しました。

また、学生時代にいろんな国に行って異文化を体験したいと考えていますので、アジア以外の国の人達が普段どんな生活しているのか、その国の文化や人と直接自分の目に確かめたいと思ったことも参加を決めた理由の一つです。シドニーの学生と一緒に作品を作ることで今後のキャリアデザインにもつながるとも考えました。

2 研修で最も印象にのこったことについて

オーストラリアはたくさんの国々の文化が集まった移民国家ということを実感しました。日本や中国などのように自国の料理や人種があったり、伝統的な文化があるわけではありません。白人、黒人、アジア人など肌の色がまったく違う人が同じ国で暮らしている光景は日本では見られないものです。そのようななか、研修ではでたくさんの文化に触れることができました。オーストラリアは多民族社会としてたくさんの人や文化を受け入れているところはとても尊敬できます。

アジアの社会は仕事に対する態度はほぼ出世するためにいっぱい働かなければならず、自分の時間を犠牲して会社に貢ぎながら生きています。オーストラリアのお店ほ午後四時から六時の間には閉まり、定時退社は一番重要なことで上司にも強制に残業させられないのだと、Rafflesの先生たちと話しているときに聞きました。聞いたときには口が閉じられないびっくりしましたが、だからこそみんなは楽しく仕事できると思いました。

3 研修を通して気づいた事・学んだこと

オーストラリアでは移民国家であり、たくさんの民族が住んでいても特別な目で他の民族の人を差別することがありません。その点について学ぶべきだと思っています。私の国では、たまに海外から仕事しに来た人に差別の目で見られることも多いです。とくに今東南アジアから来た外国人が多く、私の国の文化がわからないことから変なことしてマスコミに報道されて、民衆に悪いイメージを付けます。それによって、路上で東南アジアの人を見ると、無意識に偏見の目でその人たちのことを見ています。そのような無意識の偏見があることは海外に来てから東南アジアの人と接触して分かりました。ただ育った環境と文化が違うだけで、同じ人間で同じ地球で生活している人ですので、どのような人にでも平等に接すべきだと感じました。

4 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のプログラムを参加してから自分の英語力の足りなさを気づきました。他の参加学生は英語が上手で、自由に現地の学生たちと楽しく会話をしているところをを見て、自分も英語の能力を高めたいと思いました。キャリアアップだけでなく、英語が読めれば英語しか表現できないものもわかりやすいし、英語を話せれば海外に様々な地域で通じます。

言語は人と人の絆を結ぶものだと思います。ゆかたと水着のデザインが終わった時に初めて英語でプレゼンテーションをしました。英語のまったくできない私にとって、最初の下書きから最後まですごく大変でした。一つ一つ調べてどういう風に表現したら相手にわかるか、何回も何回も考えました。この経験は今後の学生生活も役に立つと思っています。

所属学部学科：服装学部　服装造形学科（２年）

1 Purpose of taking this course/Goals

I am always interested in studying and experiencing different cultures and lifestyles. Going abroad is one of the best ways to understand deeply about a certain country's culture and lifestyle. Another reason why is that I get to learn about how the fashion industry in a different countries works. For example, the different teaching technique between fashion schools in Japan and Australia and fashion trends and consumer's mentality between Eastern and Western countries.

In my opinion, this program helps break the ice between students from different countries and cultures and I think it's is very important for anyone who desires to work in the fashion industry because collaborating globally is one of the main reasons that helps built friendship with one another and how the growth of the fashion industry's economy.

2 Most impressive thing during the training

I was very impressed by the students and teachers. The works which were produced by the students at Raffles are very professional and the teachers taught us different technique in making yukata and swimwear, which is something that we have never done before. I was also impressed by the environment, culture and social lifestyle in Sydney. From beautiful architectures and clean beaches to one of the most delicious gourmet and friendliest and helpful people we've ever met.

Both teachers and students are very friendly and welcoming. Despite the language barrier, whenever we needed help they were willing to help us. Eventually during the first week of the program, we finally were able to meet a well-known designer in Australia Akira Isagawa. I was nervous while doing my presentation in front of Akira but he was very nice and honest when he gave me feedbacks about my work and also has given me a lot of helpful advice regarding on how to improve my work.

3 Things I've learned during the training

During our 2nd week in Sydney, the first lesson I had was the Applied designing. We have learned how to gain our ideas by looking at random objects such as architecture, art work, food, scenery, etc. and used them as indirect inspirations in order to create our garments.

It was hard at first because it's very easy to get stuck when nothing comes to mind when we are thinking hard, which can cause us to feel fear and lose confidence in ourselves. However, the teacher who was teaching us managed to guide us and encouraged us to not give up and she even gave us a lot ofgood advice to help us proceed and improve what we were doing.

After the applied design lessons, it was swimwear making time. We started out by measuring the body size, making the swimwear pattern and adding the seam allowance, then cutting out the fabric. We have also learned that "Lycra" is one of the main fabrics for swimwear other than "Spandex". After the fabric cutting was done, we proceeded in using 3 different types of industrial machine in order to sew the swimwear.

Lastly, during the end of our program, we were given a task from both applied design and swimwear making lessons to do a final presentation individually about our work from the applied design lesson and what we had learned from the swimwear making lessons at the same time demonstrating the way we make it.

4 Advantages for my student life in the future

After experiencing this program I have learned how to make use of my time by putting a priority to learn something new every day. This program also teaches me how to be fearless and openminded when it comes to any situation I'm in either bad or good. After seeing how hard both the students and teachers work and how much effort they put towards what they love to do, motivates me even more.

海外プログラム

グローバルファッションマネジメント実習

担当教員　松田祐之・須山憲之・工藤雅人

◇授業概要

服装学部服装社会学科グローバルファッションマネジメントコース3年生を対象に、本授業では、実際に企業で働くことを通して、グローバルファッションマネジメントを体験する。国内の企業もしくは海外提携先大学（香港およびオーストラリア）の紹介企業等で中期(8週間）にわたって研修を行う。

◇到達目標

グローバルファッションマネジメントのために必要なマインド、知識、スキルを実際の企業研修から体得し、これからの大学生活においてどのような学習や研究をしていくのか、また自分たちのキャリアデザインのための基礎的プロセスとして認識できるようになることを目標とする。

◇実施地域

ブリスベン、シドニー、パース、香港、東京

◇期間／スケジュール2016年10月3日（月）～11月25日（金）　8週間

学生の希望やスキル等に合せて、複数のパターンを組合せて実施した

・語学研修(4週間）＋企業研修(4週間)

・語学研修(4週間）＋企業研修(2週間）＋企業研修(2週間)

・企業研修(8週間)

◇成果と課題

実施地域が海外であるか国内であるかを問わず、コミュニケーション能力の重要性を実感したという感想が多くの学生からは出ていたことは、語学力を過剰に重視する姿勢を相対化する効果が企業研修にあったことを示すものである。また、語学力の不足を自覚し、その改善を今後の課題に挙げている学生も多く、今後のキャリアデザインの方向性を認識する機会として有益であったと考えられる。

大学と研修先企業との情報伝達の行き違いにより、適切な職務が与えられないケースが複数あったが、いずれのケースでも学生自身が早期に企業担当者に直接事情を報告したことで改善され、結果的に学生の成長につながっていた。このことから、来年度以降に改善すべき課題としては、学生自身に対応させるべき範囲と大学側が事前に準備し対応するべき範囲をより明確にし、学生の成長を促す適切な科目運営を行なうことだと考えられる。

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：ELS Universal English College（シドニー）	2016年10月4日～10月28日（4週間）
企業研修：VanMed（シドニー）	2016年10月31日～11月11日（2週間）
企業研修：Corporate Apparel Group（シドニー）	2016年11月14日～11月25日（2週間）

1 インターンの目的・目標

母国語ではない言語でのインターンシップという困難を経験をすることで自分の可能性や課題点を見つけること。また、以前短期留学の時に思うように話せなくで悔しかったので、自分から積極的にコミュニケーションを取るという目標をたてました。

2 業務内容

VANMEDでのインターンは与えられた課題を自分でやっていくというスタイルで、主に日本の市場調査、WebページやSNSの改善案の作成、Photoshopを使ったInstagramの画像やwebページのバーナーの作成、マスクのデザイン作成でした。日本語がわかる社員さんがいなかったので日本語サイトの調査や翻訳を頼まれることもありました。課題内容が書かれたレジュメが用意されていたので、だいたいはすぐに理解ができましたが、臨時で翻訳や調査を頼まれたときは英語で指示を受けるので理解するのが大変で、わかるまで何度も聞くようにしていました。

Corporate Apparel Groupでの主な仕事は納品された商品の袋むきや商品登録、商品の振り分け、オンライン商品の梱包でした。1度だけお店の人の横でレジを触らせてもらいました。1日同じ作業をひたすらやる日もあれば、お店の人の横で接客を見ながら商品の紐みだけやる日、次々と指示をされ店内を動き回る忙しい日もありました。

3 学んだこと

海外ブランドが日本で売るために、必要な情報を提供するというのが日本人であるからできる仕事だったのでとてもやりがいを感じられました。しかし、もっと充実した情報を提供するには日本や海外のファッションについての知識と、考えていることを相手にわかりやすく伝えるだけの語学力が必要だと感じました。また情報を提供するには相手について深く知ること、そのブランドを客観的にみる視点が大切だと感じました。

また、仕事はいつも自分にしかできない仕事だけ任せられるわけではありません。オーストラリアにいるからできる仕事だけじゃなく、目の前にある仕事がその時自分のやるべきことであり、任せられた以上完結させることに意味があると思いました。どんな仕事を任されようと、その仕事から大切さや今後必要な要素を見抜くなど、細かいことに気付ける人間にまずはなることが大切だと思います。

4 反省点・課題

海外のブランドを日本で売るためのPRというのはとても自分にとって興味深く、いつかまたやりたい仕事の一つです。そのために英語力だけでなく日本語力も向上させたいと思いました。英語力向上のためにTOEICの勉強を前期にやっていましたが、文法や単語での基礎固めは大切だと思います。いざ英語を話そうとなった時に生まれる抵抗感が私は最初の1、2週間で無くなったので、完璧ではありませんでしたが基礎力を活かして英会話を楽しむことができました。

また、語学学校の友達と話していて自分はあまりにも母国について知らなすぎると反省しました。せっかく日本にいる期間が長いのだから日本の誇れる部分を海外の人にも紹介できるようにしたいです。これからの自分の一番の課題は英語力を日本にいながらいかに伸ばすことができるかです。日本という環境に言い訳せずに自分にできることをやって将来に繋げていきたいです。

5 後輩に伝えたいこと

インターンシップは行っている期間だけでなく、行く前後を充実させることにも意味があります。インターンシップが始まってから頑張るのではなく、語学力やPCスキルの習得など自分のやりたいことに向けてきちんと準備することで、インターンシップの成果は大きく変わってきます。きちんと今やるべきことを環境に甘えずやっていくことが充実したインターンシップへの近道です。

6 かかった経費

- 航空券 …… 170,000円
- ホームステイ …… 250,000円
- 語学学校 …… 160,000円
- 交通費（2ヶ月） …… 20,000円
- Simcard（2ヶ月） …… 10,000円
- 食費（2ヶ月） …… 55,000円
- 日用品・衣料品 …… 25,000円
- おみやげ …… 20,000円
- 遊び（入園料など） …… 20,000円

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：ELS Universal English College（シドニー）	2016年10月3日～2016年10月（4週間）
企業研修：VanMed（シドニー）	2016年11月2日～2016年11月2日（2週間）
企業研修：Corporate Apparel Group（シドニー）	2016年11月1日～2016年11月28日（2週間）

1 インターンの目的・目標

私はこの2か月間での目標を大きく分けて2つ決めました。1つは英語力の向上です。日本では主にTOEICの勉強のみだったので、スピーキングとリスニングの向上をメインに設定しました。そして、英語を母国語としている人、また私と同じように勉強している外国人と英語でコミュニケーションをとることを意識しようと思いました。自分から話しかけることを意識して生活しました。

2つ目はインターンにおいて、海外アパレル企業の働き方や考え方で日本との違いを見つけるということです。私は将来ファッション業界で働く上で、グローバルに対応することは必須条件だと思っています。その中で、海外の企業との違いを今から知っておくことは自分の将来に有益なものになると思い設定しました。

2 業務内容

私は1か月間で2つの企業でインターンを行いました。各企業の業務内容は全く違いました。1つ目の企業Corporate Apparelでは、1週間オフィス、その後の1週間は店舗でのインターンでした。オフィスでの作業は主に雑務で、周りの方との会話もほとんどなかったです。作業内容は資料のスキャンや整理、商品へのタグ付けなどです。そして1週間後の店舗での作業は、品出しやタグ付け、オンライン商品の梱包でした。日本のアパレル店舗とあまり作業内容は違いませんでした。

2つ目の企業であるVanmedでは、初日にタスクの書かれた紙を渡され、それを2週間で行いました。この企業は日本を市場としているので、日本のマーケティングについてのレポートなどを作成しました。英語で内容をまとめて伝えるのは難しかったです。1番苦戦したのは、ウェブサイトおよびSNSで利用する画像の作成です。フォトショップを利用しましたが、ソフトにも慣れていなかったので時間がかかりました。

3 学んだこと

オーストラリアで、世の中にはいろいろな人が住んでいるということを知れたことが私の中では一番大きな変化でした。町中に飛び交っている言語は英語だけではなく、いろいろな国の人間が共存している国だと強く感じました。そのことが当たり前の国がほとんどだと思うと、日本とは大きく違うなと思いました。

また、英語ができたらものすごく沢山の人間とコミュニケーションがとれるんだ、と改めて感じました。

目標にあげていたスピーキングとリスニングは、リスニングが大きく向上したと思いました。常に聞くことに意識を向けていたので力がついたと思います。

インターンでも、学校でも、自分から発言をして、行動することが大切だということも学びました。

また、自分が伝えたいという気持ちを全面にだしていくことも必要だと思いました。

何事も自分からやっていくことが、自分を成長させるのに必要だと感じました。

4 反省点・課題

英語の勉強は、文法やTOEICの勉強だけでなく、スピーキングもよく練習しておくべきだと思いました。自分の思ったことや考えを心の中で英語にしてみたり、行く前にそういう癖をつけるとこっちで生活しやすいと思いました。

それとは別に、リスニングもかなり重要だと思いました。事前になるべくいろんな国の人の発音に慣れておくとこちらで生活していく上でかなり楽になったのではないかと思います。

学校に行っている期間は放課後にかなり時間があったので、英語で何か文章を書いたり、自分でできることは挑戦していくべきだと思いました。

この経験を生かして、英語を自ら喋ることに抵抗がもっとなくなるようにしていきたいです。
同時に、自分には決断力や行動力がまだまだ足りないと思ったので何事にも自分から向かっていくようにしたいです。

5 後輩に伝えたいこと

行く前に、交通機関がどうなっているのか、グーグルマップなどで確認すると安心だと思います。
また、携帯をフリーシムにしてプリペイドのシムカードを使えるようにするとすごく便利です。
行く前はとても不安だと思いますが、自分次第でとても楽しめる2か月になります！
いろんな人と沢山話して素敵な経験を沢山して帰ってきてください！

6 かかった経費

- ホームステイ（8週間）……2,900豪ドル
- 語学学校（4週間）……1,900豪ドル
- 食費（1か月）……約100豪ドル

  食費に関しては、ホストファミリーからお弁当を持たせてもらっていたのでほとんどかかりませんでした。
- 旅費（2泊3日）……160豪ドル
- 交通費（2か月）……約330豪ドル
- 携帯電話（フリーシム）……約50豪ドル

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：TAFE ELICOS（パース）	2016年10月3日~10月28日（4週間・週4日）
ファッション研修：TAFE, Fashion class（パース）	2016年10月31日~11月25日（4週間・週2日）
企業研修：JONTE DESIGN STUDIOS（パース）	2016年10月31日~11月25日（4週間・週3日）

1 インターンの目的・目標

私は自分の英語に自信がなく、英語を使うことに対してどうしても抵抗があったので、英語を使ってコミュニケーションをとることに少しでも自信が持てるようになることを一つ目の目標としました。

そして、私は将来のはっきりとした目標ややりたいことがわからなかったで、できる限りいろんなことを経験して、自分の興味の幅や将来の可能性を広げることを二つ目の目標としました。

2 業務内容

語学学校の［ELICOS］では、Writing・Listening・Reading・Speaking・Career research・Pronunciation・Grammarの授業やテストをバランスよく受けました。

ファッション専門学校の［TAFE］では、Drawing・Color theoryなどの授業に参加させてもらった他、Perth fashion retail research・Designer researchなどの特別プログラムも行いました。

インターンシップ先の［JONTE DESIGN STUDIOS］では、レースや布地のカッティング・スチームがけやアイロンがけ・ボタンやビーズパーツの縫い付け・パターンの作成・タグの作成とタグ付け・店舗への発送作業・工場への返品作業・マネキンの着せ替えやコーディネート・セールの準備など、幅広い業務を担当しました。私がインターン中に心がけたことは、インターンをさせていただけていることに感謝して、どんな業務にも一生懸命取り組むことです。

3 学んだこと

一つ目の目標に関してですが、英語を使ってのコミュニケーションに自信がついたとまでは言えませんが、英語ができないなりにどうすればうまくやっていけるかということが身についたと思います。なんとかして伝えようとすることが大事なことだと思いました。二つ目の目標に関してですが、何でもやってみるものだなと思いました。この2ヶ月間、今までやったことのないことや、苦手に思って避けてきたことに挑戦でき、それに興味を持つことができたり、苦手意識が少しなくなった気がするので、とにかくやってみるということが大事だと思いました。また、どこにいてもどんな環境でも、周りの人たちは大切にしなければならないと感じました。たくさんの人たちに支えられ、常に感謝の気持ちを持つことができていたと思います。

4 反省点・課題

自分がもっと英語ができて、もっと自分の言いたいことをうまく伝えることができていたら、さらに楽しむことができたのかなと思うし、もう少しうまくやっていけたのだろうなと思うことも本当にたくさんありました。また、インターンの業務で使用することはなかったのですが、ファッションの授業で使用したイラストレーターも、今では必要なスキルなのかなと思いました。

どちらも今の自分のレベルでもなんとかはやっていけたのですが、何でもできないよりはできたほうが自分にとってプラスになると思うので、もっと向上心を持って、英語の学習を継続していくこととイラレを習得することを今後の課題にしたいと思います。

5 後輩に伝えたいこと

私は今回、英語が全てではないということを何より感じました。英語が得意な人はもちろんそれが強みになると思うし、英語が得意ではなくても、何か他の強みを生かしたり、頑張り方は人それぞれいろいろあると思うので、自分次第でいくらでも充実させることができると思います。

6 かかった経費

- 航空券代……170,000円
- ホームステイ費用……270,000円
- 語学研修費用……120,000円
- 交通費……25,000円
- 食費(1ヶ月)……30,000円

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：TAFE ELICOS（パース）	2016年10月3日～10月28日（4週間）
ファッション研修：TAFE, Fashion class（パース）	2016年10月31日～11月25日（4週間・週2日）
企業研修：Galleria Couture（パース）	2016年10月31日～11月25日（4週間・週3日）

1 インターンの目的・目標

①語学の習得②日本企業との違いを知る。私の目標はこの2点でした。3年生の夏休みに2週間の国内インターンシップを経験していたことから、実際に海外で仕事をしてみて日本との違いを肌で感じたいと思い、今同の海外インターンシップに挑戦しました。また、語学力の向上も目標としていたため、個人的に最後3週間延長し語学学校にも通いました。

2 業務内容

私のインターンシップの研修先は、オーダーメイドのウェデイングドレスの会社でした。二人のデザイナーさんがデザインから製作まで手掛けていて、他に3人の従業員の方が曜日別で働いていました。そして、私の他にも2人のインターンシップの学生が週1日、お手伝いに来ていました。ショップの隣に作業場があり、私は基本的にそちらで業務をしていました。業務内容で一番多かったのがレースのカットでした。一枚のレース生地からドレスに使用するパーツを切り取り、それにスチームで接着芯を付け、また綺麗にカットする作業です。基本的にドレスにビーズやボタン、ビジューを直接縫い付けたり、ピアスやブレスレットのアクセサリー作成など、手作業がほとんどでした。他にはショップの方でショーケースの整理や、生地を色別に分ける作業も行いました。

3 学んだこと

私は手作業が多かったので、直接的にビジネスを学ぶということはありませんでした。しかしデザイナーさんとの会話から、オーストラリアではウェディングドレスはレンタルではなく購入するのが一般的で、だからビジネスが成り立っているんだと知ることができました。そういった面で、海外のアパレル事情を学ぶことができたので、どこでインターンをしたかというより、そこで自分が何を学ぶかが大事だと感じました。また、仕事中は雑談も多く、日本よりもどこかまったりとしていて、楽しんで仕事をしているのが伝わってきました。しかし決して怠けているわけではなく、メリハリを付けるのが上手いのかなと思いました。英語に関しては、約3ヵ月という短い期間で、どこまで伸ばすことができるか不安でしたが、英語を話すことに対して抵抗がなくなりました。私の英語はまだまだですが、少しでも向上したことが実感できたので良かったです。

4 反省点・課題

私は英語ができる方ではありませんでしたが、過去に短期留学を経験していたのもあって、実際にオーストラリアで生活する上で困ることはさほどありませんでした。しかし、語彙力の少なさを日々感じ、悔しい思いをしました。せっかく聞き取ることはできるようになっても、わからない単語が出てくるとそこで会話が一度途切れてしまうということが多々ありました。その度に意味を聞くのが申し訳なかったです。当たり前ではありますが、単語だけは自分で暗記することが必要だと強く感じたので、反省とともに今後の課題としたいなと思います。そしてインターン先での反省点ですが、もう少し造形だったり服に対しての知識があればもっと仕事の役に立てたのかなと思いました。

5 後輩に伝えたいこと

私は国内か海外か直前まで悩んでいました。結果、海外に行って本当に良かったと思っています。ただ、どちらを選んだとしてもかけがえのない経験になることは確かだと思うので、自分がやりたいと思ったことを全力で挑戦してみてください！

6 かかった経費

- 旅費 …… 170,000円
- ホームステイ（11週間） …… 350,000円
- 語学研修費（TAFE） …… 126,000円
- 語学研修費（Milner） …… 126,000円
- 食費（1週間） …… 10,000円
- 交通費 …… 20,000円
- 雑費（お土産など） …… 80,000円

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（３年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：TAFE ELICOS（パース）	2016年10月3日~10月28日(4週間)
ファッション研修：TAFE, Fashion class（パース）	2016年10月31日~ 11月25日(4週間・週2日)
企業研修：Morrison（パース）	2016年10月31日~11月25日(4週間、週3回)

1 インターンの目的・目標

目的：他国での生活を通して文化の違いを知ること。海外のアパレル企業について知ること。海外の働き方について知ること。

目標：英語の間違い等を気にせず、積極的にコミュニケーションを取りにいくこと。帰国後、「行ってよかった」と思えるよう、充実した生活を送れるように行動すること。様々な国の友人を作ること。

2 業務内容

・売れ行きチェック→毎週店舗に行き、先週からどのくらい売れたかを把握する。
・セールに出す服の選別→売れ行きを参考にセールに出す服の量を決め、過去の在庫からダメージの有無や売れるデザインか等をチェックし選別する。その時店舗に並んでいる服の傾向や流行等を把握しておくことが大切だった。
・発送作業→注文されたものをストックからピックアップ・梱包をし、住所入力する。漏れの無いよう、他の人とダブルチェックを常に行っていた。
・タグ作成→それぞれの工場に発注している服のリストを元に、型や色番等を専用のソフトに打ち込みタグを作る作業。大量にあったので素早く作業するよう意識した。タイピングの速さは重要だと感じた。
・服の直し、スチーム→工場から送られてきた服を店舗に送る前に全て確認しスチームをかける。ほつれ等自分の出来る範囲であれば直し、ダメージの大きい物はお針子さんのところへ直しの依頼をする。スチームの当て方や使い方等、造形の授業の知識があるとスムーズに作業出来る。

3 学んだこと

・アパレル企業について→授業で聞いていたアパレルの仕事をリアルに体験することができた。特にわたしの行ったブランドはデザイン～発送作業まで全て同じ場所で行われていて人数も少なかった為、常にスタッフが意見交換しそれぞれがどういう状況かを把握して仕事を進めることができていたこと等、小さい会社特有のメリットも体感することができた。
・積極的に動くこと→最初の一週間は言われたことをひたすらやっていたが、仕事の流れを把握し始めてからは自分から進んで「次は～してもいいですか？」等と聞くようにしていた。結果、一日で出来る仕事量を増やすことが出来、スタッフさんから「来てくれて助かった」と言っていただくことができた。「積極的にコミュニケーションをとる」という目標がこの行動に繋がったと思う。
・楽しむという気持ちの大切さ→インターンや海外での長期滞在は初めてで、更に英語でのコミュニケーションに自信が無かったので不安もあったが、「せっかく行くなら楽しもう」という気持ちで常に行動していました。結果、とてもいい2カ月を過ごすことができ、とてもいい経験になった。行って良かったと心から思ってます。

4 反省点・課題

・パソコンの知識→ファッションを勉強しているというとイラストレーターとフォトショップの知識はあるものとされている節があったし、全て英語表記で分かりづらいのである程度の基礎知識は事前に身につけておくべきだった。この二つだけでなく、タイピングの速さ等も仕事をスムーズにこなすには必要だと感じた。
・英会話力→英語がきちんと話せなくてもなんとかなってしまうが、言いたいことをスムーズに伝えられない悔しさも実感して、今まで漠然と英語は話せたほうがいいかなという気持ちから英語は絶対に習得したいという気持ちに変わったので、今後勉強していきたい。
・行動力→当時はいろんなところに行っていたつもりだったけど、今考えてみたらもっと土日や放課後等を利用していろんなところい行けたんじゃないかなと思う。パースは直行便も無く、なかなか気軽に行ける場所じゃないから出来る限り観光しつくしておけばよかった。2ヶ月間が意外と短いことを実感した。

5 後輩に伝えたいこと

出発前に英語の勉強をすることになると思いますが、単語や文法は正直あまり役立たなかったので、会話の勉強に力を入れるといいと思います。特に、相槌やリアクションに使えるものは覚えておくとコミュニケーションがとりやすくなります。あとは楽しもうという気持ちを持って行くことが一番です！

6 かかった経費

- 旅費、宿泊費（ホームステイ）、語学学校 …… **60万円程度**
- 食費 …… **月3万円**
- 食費以外の生活費（交通費、交際費、日用品等） …… **月5万円**

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：TAFE ELICOS（ブリスベン）	2016年10月10日～ 10月28日（3週間）
企業研修：Fashion Weekly（ブリスベン）	2016年10月31日～ 11月18日（3週間）
ファッション研修：TAFE（ブリスベン）	2016年11月21, 22日

1 インターンの目的・目標

目標としては、海外の企業で現地の人たちと一緒に働くことによって、その人達とコミュニケーションをとっていき、自らの語学力を向上させていき、英語という言語で仕事をこなしていく経験をすること。目的は、オーストラリアという場所でオンラインで情報発信をするFashion Weeklyという企業の中で仕事をすることで、日本とオーストラリアとでのオンラインメディアの違いを発見し、それを今後のキャリアに生かしていくというもの。

2 業務内容

業務内容としては、オンラインメデイア上で必要となるイメージづくりが主となっていた。カメラでファッションアイテムを撮影していき、それをPhotoshopで加工していったりすることがほとんどだった。細かく説明すると、商品の撮影、画像の色彩光度の補正、いくつかの画像を組み合わせることで新しい画像へ作り変えること、すでにある画像へメッセージを付け加えることによる広告の作成といったものが主だった。そのほかには、撮影用の写真を撮るためのアイテムのリースに同行させてもらったり、InstagramやSnapchatの更新といった日常的な情報発信などを行なった。基本的には、こうしたことが約3週間でしてきたことだった。必要なスキルとしては、PCを不自由なく使えるだけの知識とPhotoshopの技術だけになると思う。カメラなどはそこまでスキルというほどは必要なかったと思うが、仕事で使っていた機体のブランドが私の所有していた機体と偶然同じで、少しの役にはなった。

3 学んだこと

インターンシップで学んだことは、スキルさえあれば、どこの国でも仕事ができるということ。事前に考えていた目的に、オーストラリアと日本でのオンラインメデイアの違いはどうだろうかという点を考えて行ったが、実質的にはほとんど何も変わらない。華やかそうで楽しそうなweb関係の仕事だが、毎日の地道な情報発信によって、成り立っているというのは国が違っても同じだった。国が違っても、すべきことが同じであれば、スキルと言葉の能力があれば、仕事をし、生きていけるということが頭の中でなく、体感として感じられたのは大きな学びであったと思う。そして、ファッション系のオンラインメデイアを作っていく上では、絶対的に現実惟界での圧倒的な人脈がなければ、参入しにくい世界なのだということも体感できたのも良かった。結局は、人との繋がりが全てだとオーストラリアという日本とは違う国で再確認できた。

4 反省点・課題

反省点は特には思い当たらない。課題としては、コミュニケーション能力を鍛えていかなければいけないと思ったこと。それは言語の問題ではなくて、自らの態度とかボデイランゲージとかで相手との距離を縮める能力であったり、そこで信頼関係を作っていったりするためのスキルのこと。

そういった部分は日本にいるときには、そこまで問題視することはなかったし、うまくやることができる方だと思っていたが、今回オーストラリアに行ったことで、その部分での欠如が感じられた。相手と仲良くなることはできても、自分からグイグイといくことができないことがあった。たとえ、その国の言葉がうまく話せなかったとしても、相手と笑って仲良くできるようなコミュニケーションの技術を今後身につけて生きたいと強く感じた。

5 後輩に伝えたいこと

どこの国で、どの場所でインターンシップをするかというのは人それぞれだと思うけれど、せっかく普段の生活とガラリと変わった約2ヶ月になるから、その時間の全てをいつものあなたと全て違った日々でうめつくしてほしいと思います。

6 かかった経費

- 飛行機代……**ほぼ10万円**
- 宿泊費……**16万7000円**(Airbnb 8週間)
- 生活費(食事・交通費含む)……**約10万円**(8週間)
- 語学学校……**7万8000円くらい**
- その他・娯楽等……**3～4万円くらい**

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

ファッション研修：TAFE（ブリスベン）	2016年10月4日～ 10月7日
企業研修：Fashion Weekly（ブリスベン）	2016年10月11日～ 11月1日
企業研修：Mountain Designs（ブリスベン）	2016年11月2日～ 11月18日
ファッション研修：TAFE（ブリスベン）	2016年11月21, 22日

1 インターンの目的・目標

最終目標である海外での生活・就職に向けて、1人暮らしをしながらインターンシップと私生活の両立する。また、インターンを通して日本とは違ったファッションの事情を知り、今後の具体的な方向性を考える。

2 業務内容

ウェブマガジンを配信するFashion Weeklyでの仕事は主にデスクワークでした。フォトショップを使って、課題のイメージに合わせたムードボードやウェブ上でブログなどに使用するインフォグラフィックを作成しました。研修の前にもフォトショップなどの基本操作は身につけていきましたが、実践で使っていくうちにスピードや完成度が上がっていくのが自分でもわかり楽しかったです。また記事に載せるための資料を集めたり、研修期間がブリスベンのファッションイベントの時期と被っていたため、Fashion Weeklyが主催するイベントの準備や運営を手伝ったり、ファッションショーを見に行ったりしました。その他にも毎日することとして、Fashion Weeklyの各アカウントからInstagramとSnapchatに載せるための写真撮影と投稿を行いました。初めは使い方がよく分からなかった証明器具も、光を飛ばしてみたり、あえて影をつけてみたりして写真に立体感を出したり、実際の現場でしか味わえない経験でした。

3 学んだこと

3週間ずつ2企業での時間はあっという間で特に何かの技術が身についたという訳ではありませんが、「ファッション」に対する日本との認識の違いが印象的でした。日本ではファッション＝アパレルという認識が強いですが、オーストラリアでは必ずしもアパレルだけではなく、出勤前のヨガも、夕方のホームパーティも、週末のハイキングやビーチも全てファッションであると感じました。

また、「人と同じ」ことを重視する日本人に相対し、オーストラリアでは「その人自身」のパーソナルな部分が尊重されます。そのため自分の意志をはっきりと持たなければなりません。また経験から言うと、初対面の人にそういった自分をアピールできることは武器にもなります。たった2か月の研修でしたが、「恥ずかしい」よりも「一歩の勇気」がいろいろな現場での経験や、たくさんの友人をつくるきっかけになったと思います。

4 反省点・課題

私にとってこの研修は、この大学へ来た第一の目的とも言えます。そのため「準備」には人一倍時間を費やしました。1年生の頃からGFMコースの報告会やイベントで先輩の話を聞いたり、英会話に慣れるため2年生の夏休みに1人で海外へ行ったり、日本でもファッション業界でのアルバイトやインターンの経験を積むなど、何も知らない状態で現地へ行くより、聞いたり体験した経験（＝準備）があったことで充実して過ごせました。

語学力やパソコンの操作ももちろん大切ですが、何よりも大切なのはコミュニケーション能力だと思います。道具があっても使い方を知らなければ使えないように、どんなに英語の勉強をしても実際に使えなければ意味がありません。今回の研修で、今までの「海外でファッションの仕事がしたい」という漠然としていた目標から、自分が最終的にどうなりたいのかという具体像が見えてきたので、そこに向けてまた「準備」をしていきたいと思います。

5 後輩に伝えたいこと

大変さで言うと、行くまでの準備：現地は6：4くらい。しっかり準備をして、何でも躊躇せずに挑戦してみた方が楽しめることはいっぱいです。どんなに緊張しても、笑顔とバスを降りる時の「Thank you!」は忘れずに。

6 かかった経費

- 渡航費 …… 100,800円
- 滞在費(Iglu) …… 294,462円
- 食費/月 …… 80,000円
- 買い物、交際費 …… 250,000円

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

企業研修：KOYO（香港）　2016年10月3日～2016年11月23日（8週間）

1 インターンの目的・目標

将来、ファッション業界で働こうと思ってインターン先であるKOYOでアパレルのシステムを経験したかった。日本の雰囲気とかが違うかもしれないが特に会社の中の雰囲気とシステム、たとえば流通、マーケティングまで全般的なことを学びたかった。またインターン先である香港の文化も体験したかった。

2 業務内容

2ヶ月間多方面で仕事を経験したが、色々な仕事のなかで業務内容としては大きく2つに絞られると思う。ブランド企画とポップアップストアがそれである。2ヶ月の間ほぼ1ヶ月間やったブランド企画は、新しい帽子ブランドを目的にした。最初のバックグラウンド、ブランドのコンセプトなど、色々なことを考えたり、ネットで参考したりしてプレゼンテーションを作った。プレゼンテーションを作る時は全体的なイラストを使って完成したのでイラストつかうことにも気をつけた。

ポップアップストアは社内にある部屋を利用した。空いてる部屋に鏡、机、ハンガーなどを使って最初の段階である部屋デイスプレイから始めた。その後に品出しとかアイロン、ハンギングをしてポップアップストアが続けることに問題がないように準備した。

3 学んだこと

最初からアパレル業界の実務を体験したかった。実際、想像通り仕事ができてよかったと思う。特にブランド企画をする時には学校で学んだことと連係性もあったので楽しみながら仕事をした。インターンシップの目的であったファッション業界の雰囲気を試してみるということも社内のミティングを一緒にすることで経験してみた。プレゼンテーションを作る時は以前にはうまくできなかったイラストとフォトショップを使って色々な仕事をしたので少し慣れたと思われる。またポップアップストアを経験してみることでVMDの仕事についても軽く体験すした。そのおかげでVMDということは何かをわからるようになってよかったと思われる。

4 反省点・課題

元々言語力を高めることよりファッション業界を体験する、システムを学ぶのが目的だった。でもインターンシップを英語を使う機会として少しでも使えると考えた。でも実際、インターンで英語を使う機会が少なって残念だった。香港というところが英語を使うというイメージがあるがその人たち全世代が完璧な英語を使うことではない。それで僕の期待より英語を使う機会が少なかったと思う。また個人的には会社でマーケティングを実際にどんな流れで進んで行くかを体験したかったがそれができなくて残念だった。2ヶ月間、仕事をしながら学んだこと、見たことを忘れなのが重要なポイントだと思う。後にいつか、どんな場面で使えるのかわからないのでいつでもできるように頑張って自分を成長しておくのが必要だと思う。

5 後輩に伝えたいこと

自分が何を目指してインターンをするかによって国内かオーストラリアか香港か地域が選べられるしどんな企業にするかによっても違うのでインターンをする目的をちゃんと考えるのが重要なポイントだと思う。

6 かかった経費

- 寮……**約9,500香港ドル**
- 交通費…**約5,000香港ドル**
- その他 **約10,000香港ドル**

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

企業研修：KOYO（香港）　　2016年10月3日～11月25日（8週間）

1 インターンの目的・目標

海外でのビジネスのやり取りと運営の仕方などを体験したいために、この海外インターンシッププログラムに参加することになった。このインターンで海外企業でどのようなシステムを使用しているか、どのような流れで会社をマネジメントしているのか、実際的に体感して、経験を積みたいと思った。それで、将来日本で就職する際に、そこで勉強したことを活かして、自分の会社を改善できるように力を貢献したいと考えている。

2 業務内容

KOYOでインターンする期間には、特にどの部門にも属していなくて、いろいろな作業と仕事をさせられた。基本的にマネジャーの指示を従って、仕事をする形だ。最初の1週間目は有名なオンラインショップとブロガーをリサーチする仕事。それで、日本の伊勢丹に展示する用の服をアイロンして、写真を撮って、パッキングリストを作成した。2週間目から、AVENUE1218というKOYO傘下にあるブランドの帽子専門店を出店することにしたので、企画書を作成する大きいプロジェクトをマネジャーに任された。帽子やインテリアなど、沢山のイメージを検索して、マネジャーに見せた。企画書のうちに、私が任されたのはターゲットマーケット、ブランドポジショニングとプライスポジショニングだ。全ての資料をまとめて、ジョンフン君と一緒にイラストレーターでPPTを作成した。中国企業に向けて、中国語版PPTも翻訳した。それ以外、年末のポップアップストアーの設立も任された。インテリアのVMDを考えて、オフィスの中にある部屋を利用して立ち上げた。ポップアップストアーで販売員としても活躍した。

3 学んだこと

インターンシップを通して勉強になったことは、相手の立場からものことをみるのだ。課題などが任された際、相手が求めていることをきちんと理解し、たくさん質問するべきだ。どうしてかというと、一人一人のビジョンが違うので、相手が言った通り仕事しても、結局間違ったもよくある為だ。企画書を作成して、ボスに見せたら、コンテンツが良いけど、私が求めているのもっとビジュアル的に衝撃がもらえるようなPPTだと言われた。それで、3、4回ぐらいやり直した。それ以外、コミュニケーションも非常に大切である。話が通じないともっと積極的に違う方法で伝える努力するしかない。ただし、そのまま会話が出来ると仕事の効率もそれなりに高くなると思う。

4 反省点・課題

Word, Excel, Illustrator, Photoshopなど基本的なPCスキルは大切なスキルだと先輩たちが言ってくれたが、インターン期間中に活用できるぐらい実力じゃなくて、残念だと思った。特に、IllustratorとPhotoshopの練習がたくさんしなかったのを後悔した。私たちの大学はIllustratorとPhotoshopの専門授業がなくて、自ら大量に練習した方が、アパレル業界でもっと活躍できると思う。香港のファッション学校はほぼIllustratorとPhotoshopの授業をメインにしている

ので、当たり前にできると思われることが多いのだ。それで、私が香港にいるの一ヶ月目に病気になって、インターンを一日休んだ。自分の体調管理がよくできなくて、会社の皆に迷惑をかけ、すごく悔しかった。

5 後輩に伝えたいこと

海外でインターンをするのに一番大切のがチャレンジ精神を持つことだと思った。インターンでいろいろ試したいやる気があれば、向こう側も任せると思う。自分の語学力が十分ではないかってがっかりするのではなく、自らの考えをしっかりインターン先の人たちに伝えること、コミュニケーションの取り方はいくらでもあるから、他の方法探せば良いと思う。

6 かかった経費

- 飛行機チケット（往復）…… **40,020円**
- 宿泊費：VTC寮 Pokfulam… **4,980香港ドル／月**
- 交通費（寮と会社の往復）…… **1,140.8香港ドル／月**
- 食費 …… **2,790香港ドル／月**

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

語学研修：ELS Universal English College（シドニー）　2016年10月4日～10月28日（4週間）

企業研修：PLOTZ（香港）　2016年11月2日～11月24日（4週間）

1 インターンの目的・目標

英会話を実践しながらアパレル企業で働く経験を積むことを目標とし、海外のアパレル企業がどのように成り立ち、日本のアパレル企業で経験したインターンシップと比較してどの様な類似点と相違点があるのか知ることを目的としました。また、インターンシップを通して自分に必要なスキルは何か見つけることも目的としました。

2 業務内容

私がインターンシップを行った場所は、PLOTZの本社でした。そこは3種類の作業場があり、オフィスでは主にデスクワーク、ショールームではサンプル商品に関する作業とVMD作り、アトリエでは製作の手伝いを行いました。

私の業務は様々でコレクションに向けたイメージ画像検索、オンラインショップ用商品の写真撮影と編集、他企業へのコンタクトと訪問、布地裁断、材料調達、ショールームのVMD作りを行いました。最初の2週間は画像検索や写真撮影と編集、日本企業へのメールでのコンタクトなどが中心で、残りの2週間は布地裁断や香港の布地問屋街での材料調達が中心でした。最終日にはショールームで開催されるフリーマーケット用のVMD作りを行いました。

インターンシップを通して心がけていたことは、大学で勉強してきた服作りやVMDに関する知識がどれだけ使えるのか、そして自分に何が足りないのか把握することでした。また業務を通して必要に感じたスキルは、Photoshopの使い方やビジネスで使えるメールの書き方でした。

3 学んだこと

インターンシップにおいて学んだことは、香港人と日本人の仕事に対する意識の違いでした。例えば、サンプルや在庫管理の方法やオフィスの整頓具合などが香港の方が少し乱雑で驚くことが多くありました。他にも働いていく中で感じた違いは、始業時間が遅いことでした。私が10時半に出勤するにもかかわらず、上司たちは毎日13時頃に出勤していたのでオフィスに入れない日や出勤しても仕事がないことが多くありました。しかし、このようなことがたくさんありましたが働いている社員の方々を見ていると、日本人によくある与えられた仕事を時間に追われながら焦って働くというスタイルではなく、好きな時間に好きな風に働くという感じで働くことがとても楽しそうに感じられました。何事に対しても全力投球の私にとって、このような働き方は仕事を楽しむ上で大切なのかもしれないと考えさせられました。

4 反省点・課題

全体の反省点としては、仕事や日常生活に使える英単語や表現をもっと予習して臨めばよかったと思いました。実際に英語が片言でもコミュニケーションを積極的にとることで相手が理解してくれることもありましたが、海外で研修を行うというなかなかない機会だったので、それを自覚してしっかり予習していたら会話もより充実し、ステップアップができたのではないかと思いました。

インターンシップにおける反省点はPhotoshopをたくさん使ったので使い方を予習しておくことが重要だと思いました。また、これからの課題としても言えることですが、商品の布地やショールームのVMDについて意見を問われることが多くあったので、それらに関する授業を受講したり自学自習を行って、知識を増やしておくことが必要だと思いま

5 後輩に伝えたいこと

海外インターンシップはなかなかできないことなので、たとえ英語に自信がなくても絶対にいい経験になると思います。また将来の仕事観などを考えるいい機会になると思うので、挑戦することをお勧めします。

6 かかった経費

- 飛行機チケット …… **139,000円**
- 宿泊費 …… **173,000円**（シドニーにてホームステイ）／ **67,200円**（香港の寮）
- 語学学校 …… **164,000円**
- WiFi・携帯電話代 …… **14,000円**（シドニー）／ **2,400円**（香港）
- 食費 …… **13,000円**（シドニーは昼食と外食のみ含む）／ **46,000円**（香港は朝昼夜全て含む）
- 交通費（観光も含む）…… **15,000円**（シドニー）／ **21,000円**（香港）
- 雑費（おみやげ・嗜好品など）…… **40,000円**（シドニー）／ **30,000円**（香港）

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

企業研修：ブランドニュース株式会社（東京）　2016年10月3日～ 11月25日（8週間）

1 インターンの目的・目標

私の目標は失敗を恐れないことでした。インターンシップの前の私には失敗するのが怖くて挑戦すらできなかったことがたくさんありました。しかし、失敗が怖くて最初から諦めてしまうのは愚かなことだという気がして、もし失敗をするとしも挫折せずにもう一度挑戦してみるような精神力を培うのが今回のインターンシップの目標でした。

2 業務内容

勤務時間は朝10時から夕方の19時までででした。主な業務はショールームに展示されているサンプルの管理、貸し出しするためのピックアップと戻し、タグを付ける作業でした。サンプルセールと展示会の準備をする時には売り場整えを集中的にしました。オフィスではエクセルでサンプルリスト作成、プライスタグの作成、タグに入れるためのサンプルの写真撮影などをしていました。特に部署が分かれていない小さい会社だったので所属していた部署はいませんでした。パソコンを使う作業はエクセルとワードぐらいしかなかったので、基本的なパソコンスキルさえ持っていればできる作業でした。外国人デザイナーとのミーティングと英文翻訳業務があったので、英語でのコミュニケーションスキルは必修だと思いました。

3 学んだこと

プレスは広告とは違います。色々な媒体に基づく広告とは違い、プレスは人とのコミュニケーションに基づいて商品を知らせる仕事です。社員たちが徹底的に顧客管理をしているところを見て、どれだけ顧客とのコミュニケーションが重要な仕事なのかが分かりました。そして、ビジネスにおいて人脈が欠かせないと思いました。また、モテイベーションの重要性を感じました。与えられた仕事に自信がなかった時に諦めてしまうより、とりあえず挑戦してみて、失敗しても十分に価値のあることだと思うのが大切だと思いました。私は実際に、アメリカ人デザイナーとのミーティングの時に、片言まじりでも自分の意見を出そうとしました。何も話さないよりは間違っても話してコミュニケーションしようとするのが大事だからです。

4 反省点・課題

決まったいる仕事がなかったので、社員の指示かないと何をすればいいのか分からない時があったのですが、社員の指示を待っているのではなく自ら仕事を探したり提案したりして業務にもっと積極的だったらよかったなと思いました。また、もっと英語ができればよかったと思いました。英語力を必要とする仕事が色々あったのですが、言いたいことがちゃんと伝えられなくて困りました。これからグローバルビジネス社会で自由にコミュニケーションできるように英語の勉強にもっと力を入れるべきだと思いました。

5 後輩に伝えたいこと

インターンに行く前に確実な目的、目標を決めることが大事です。何故この会社でインターンをしたいのか、インターンを通して何を身につけたいのかが明確に立てられていないとただのボランティアに過ぎないからです。

6 かかった経費

- 交通費と食事代以外には特にかかった費用はありません。

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（3年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

企業研修：ラフォーレ原宿運営室（東京）　2016年10月3日～ 11月25日（8週間）

1 インターンの目的・目標

このインターンの目的は、ビジネスを知ること、SCの仕組みを知ることの2点でした。私は恥ずかしながら、SCはアパレル業界だと思っていたので、改めて一からSCを知ってみたいと思いました。その中で私が立てた目標は、FUSEとインターンを両立させることです。私は、FUSEを続けたいという気持ちが強く、海外インターンを諦めました。しかし、学校から長期のインターンをさせてくれるという貴重な機会を無駄にしたくなかったので、どちらも手を抜かず毎日全力でやろうと決めました。

2 業務内容

ラフォーレ原宿は、リーシングから運営、施設管理まで一貫して行っている会社で、約25人の社員がいます。私は、ラフォーレのフロア構成を決め、テナントを誘致してくるリーシングチームで、入れ替わりの早いPOPUP SHOPの誘致から撤退までの業務を学びました。ラフォーレの共有事項を話す全体会議や、POPUP　SHOPの企画会議、2015年に導入された飲食エリアの運営会議へ出席し、全体の把握と進めている企画を理解することから始まりました。

POPUP SHOPに関して、コレクションや展示会に毎日足を運び、ラフォーレに出店して欲しいブランドを発掘することをしました。また、出店が決まった出店者様との打ち合わせへ出席し、目の前でビジネスが生まれているのを体験しました。

SCの業務として、毎日、フロアガイドの補充や館内巡回、売上入力をし、ラフォーレに来店されるお客様の動向を勉強しました。

また、レポート課題が5つ程あり、今20代の求めていることやラフォーレの改善点、SNSの活用などについてまとめ、社員さんに提案、発表をしました。

3 学んだこと

私がこのインターンで学んだ事は、人と人の繋がりはなによりも大切だという事です。ラフォーレのお客様はテナントであるがゆえ、常設店舗はもちろん、POPUP　SHOPの出店者とも1回限りのお付き合いではなく、持続的なコミュニケーションが必要なのだと思いました。将来のラフォーレにとって重要であるかもしれない、というのを忘れてはいけないし、またその繋がりが思わぬ良い方向へ発展していく可能性もあるのだと分かりました。

また、ビジネスを始める際、実際に人の言葉によってお金が動いていくのを目にして、言葉選びや広い知識の重要度を理解しました。

不動産業界というと土地や家の売買などのイメージしかありませんでしたが、アパレル業界以外から、こんなにもファッションを濃く見ることが出来るのは、私の中で発見でした。

4 反省点・課題

SC業界の理解を早める為にも、少しでも業界のことを勉強しておくべきだったと感じました。また、自分の意見を常に持ちながら行動することが私に欠けていたなと思います。たくさんの展示会やコレクションに連れて行って頂きましたが、見ることに集中してしまい、ビジネスの面で商品を見る事、感想を持つ事が出来ていませんでした。そこが私の課題点で、これから何に対しても意見を持つことを心構えようと思います。そして、私が一番苦戦したのはパソコン知識です。エクセルの使い方が中学生レベルだったので、エクセルから教えてもらい、社員さんの時間も、課題への時間も自ら削ってしまったなと反省しました。タイピングも上手な方でないので、作業効率を落としているなと毎日感じていました。

5 後輩に伝えたいこと

国内インターンは言葉の壁がない分、社会に出るということをリアルに実感できるます。また、自分次第で業界の人脈も作れます。直接将来に繋げたいなら国内インターンをお勧めします！自分がやりたい事、得たい事を優先して、積極的に頑張ってください！☺

6 かかった経費

- 昼食代 …… 1,000円／日
- 通勤費用は実費だが定期圏内の為 ……0円

所属学部学科：服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース（３年）

都市・実習企業名・部署と実習期間

企業研修：オンワード樫山（東京）　生産管理　　2016年10月3日～10月28日（4週間）

JOSEPH事業部　2016年10月31日～11月25日（4週間）

1 インターンの目的・目標

アパレル業界の販売、バイヤー業務、MD、VMD、企画、広報などの業務内容と海外ブランドに関わる仕事を詳しく知るため。そして今後のために今の自分に何が必要で、新たに何を学ぶべきかを見つけるため。

2 業務内容

出勤は9:50～18:10で祝日、休日はお休みでした。はじめの4週間は生産管理、残りの4週間はJOSEPHの事業部に配属されました。生産管理では1週間ごとにセクションが変わったので（海外ローカル・安田ベトナム・ニット開発チーム・SR開発部）仕事内容を幅広く学ぶことが出来ました。主に資料をみたり、会議や取引先との打合せに参加したりしていました。他には、海外への輸送作業や指示書の作成をしました。JOSEPHの事業部ではデザイナーの席でモノづくりの工程を一通り学び、コートのスナップ付けをしたりしました。MD席では数字のみかたや、来シーズンにむけての動きなどを学びました。他にもVMDの仕事内容も学び、オンワード開催の展示会や生地の展示会に同行や、外部の方からのセミナーにも参加しました。

3 学んだこと

オンワード樫山の会社の仕組や自社ブランドとライセンスブランドの企画から販売までの流れを学びました。その過程でどれだけの人が関わっているのか、どの部署の人がどのような仕事をしているのか、どの点に気を付けながら物事を進めているのか、そこで起きる問題など、細かいことまで知ることができました。また、その問題がおきないようにするための対策や、起きた後の解決策なども社員さんの方から直接聞くことが出来ました。他には、大学の授業で学んだMDの仕事内容を目の前で見ることが出来たり、授業で学んだことを実際に活かせたりもしました。1年生の時に習った授業内容がかなり会社のなかでは大事な知識となっていました。それと社会の動きや他ブランドの情報の知識も必要でした。また、華やかではない場面もありとても驚きましたが、全ていい経験になりました。

4 反省点・課題

インターンの前に、今までに習った授業内容を復習しておくべきです。例えば、生地の名前とその性質、ある程度の服の知識（パターン・縫製）があると会議での話が理解できやすくなります。ニットの知識があるともっと良いです。生地屋さんに行って、端から端まで生地の混率を意識しながら実際に触ってみるのも良い方法です。それと、会社のブランドの店舗に足を運んで試着したり店内の雰囲気をみたりして、そのブランドがターゲットとしている人達が行きそうな他ブランドも知っていると、いいと思います。この反省点から、就活までに、インターン中にやっておけばよかたなって思うことを一つずつやっていこうと思いました。敬語や漢字もあたりまえにできるようにしていきたいです。この2か月で会社に少しは慣れたので、これからいろんな会社にもインターンシップに行こうと思います。

5 後輩に伝えたいこと

最初は、緊張していると思いますが、大きな声での挨拶や自己紹介が大事です。2か月もあるのでいろんな方から吸収できるだけ吸収してきてください。自分から行動すると、いい結果を得られます。

6 かかった経費

- 交通費 …… 25,740円
- 食費 …… 16,000円

長期学外学修プログラム 平成28年度報告書

発行日：平成29年3月28日
発　行：文化学園大学
〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1
電話　03(3299)2019
編　集：松田祐之(服装社会学研究室)
工藤雅人(服装社会学研究室)
エドワーズ沙織(文化学園大学USR推進室)
大西由里奈(文化学園大学USR推進室)
印刷所：株式会社 文化カラー印刷
〒102-0071東京都千代田区富士見1-7-9　東京瓦会館
電話　03(3264)7575